

【2022年10月24日 毎日新聞朝刊】

問題冊子の点字化 初実施

ニュース 時事能力 検定試験



時事問題への理解度を測る第58回「ニュース時事能力検定試験」(NPO法人日本ニュース時事能力検定協会、毎日新聞社など主催)が9月、全国で実施された。東京都文京区の筑波大付属視覚

特別支援学校では、点字で書かれた検定問題に生徒が挑んだ一写真。

ニュース検定が点字で実施されるのは今回が初めて。これまで視覚障害のある受検者向けに問題の拡大コピーや読み上げはしてきたが、全盲の受検者から点字化の要望を受けて対応を拡大した。

点訳は、今年創刊100年を迎えた週刊点字新聞「点字毎日」(毎日新聞社発行)編集部が担った。

同校高等部の青松利明教諭(52)によると、障害のある生徒がニュース検定を受ける際は、教員が問題文を読み上げていた。だが、長い文章や複数の図表を読み解く問題では、多くの情報や数値を聞き取って記憶しながら答えを導き出すことに難しさを感じる生徒が少なくなかったという。

今回、点字で受検した同校高等部3年の北郷宗大さん(18)は「情報量の多い問題も、自分のペースで読み直したり図表を再確認したりできるので、とても受けやすかった」と振り返る。青松教諭は「障害のない人たちが挑戦できることに自分たちも挑戦できると思えることは、子どもたちにとって自信になり、社会に積極的に参加したいという気持ちを育むことにつながる」と語った。

ニュース検定は今回、弱視の受検者に対しても、大学入学共通テストで実施されているように、文字を拡大したうえでページを再構成した問題冊子を提供した。こうした対応は、来年度以降の検定でも実施する。

【塩田彩、写真も】

